

2. 現地事前調査研修を取り入れた高病原性鳥インフルエンザ初動防疫体制の構築

玖珠家畜保健衛生所

○梅田麻美・松本航平・佐伯美穂・木下正徳

【はじめに】

高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）防疫対策上、初動防疫対応は重要な点のひとつであり、より迅速で適確な対応のためには家畜保健衛生所を中心とした関係機関の協力が不可欠である。管内においては、毎年、県機関（振興局、保健所及び土木事務所）及び市町と連携し、現地事前調査研修等を取り入れた防疫演習を実施することで、初動防疫体制の構築を図っているため、その概要を報告する。

【管内養鶏場の概要】

平成28年の管内養鶏場（100羽以上）は15農場、飼養羽数は1,031千羽で、規模別内訳は1,000羽未満3農場、1,000～10,000羽3農場、10,000～100,000羽4農場、100,000羽以上5農場である。

【初動防疫体制構築のための対応】

1 HPAI初動防疫対策に関する協議

毎年度、管内の県機関の担当者とHPAI初動防疫対応に関する協議を行い、研修会の開催や防疫演習の内容・スケジュール等の調整を実施。

2 防疫研修会の開催

家畜防疫に関し未経験者の県職員に対し、HPAIに関する研修会を開催。初動防疫対応は大分県高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザ防疫ガイドライン（県ガイドライン）の各作業場（総務・集会場・クリーンゾーン・ホットゾーン）の係長が要となることから、平成28年度は各作業場の係長を対象に「初動防疫作業に関する係長研修会」を開催し、作成を依頼した各係の作業内容のイメージトレーニングを行った。

3 現地事前調査研修と防疫演習の実施

毎年度、県ガイドラインの現地調査担当者が各作業場に分散し、作業場所の状況確認、作業レイアウト及び作業動線の検討等を行う現地調査研修を実施。その後、現地事前調査研修の結果を活用し、机上演習や実働型演習を実施。

4 初動防疫計画書の修正

防疫演習の結果及び課題をもとに初動防疫計画書の修正を実施。

【まとめ】

迅速で適確な初動防疫体制の構築のためには、日頃から関係機関と連携し、十分な防疫訓練を実施しておく必要がある。HPAIに関する研修会や協議を通して、関係機関の職員の防疫意識の向上を図ることができた。また、事前調査研修を取り入れた防疫演習の実施により、作業イメージが湧きやすく、より現実に即した初動防疫計画書の作成・改善が可能となった。今後も、事前調査研修を継続するとともに関係機関と連携し、初動防疫体制を構築していくことで、HPAI発生の備えとしたい。